



立野

練馬区立立野小学校

令和4年 5月号

<http://www.tateno-e.nerima-ky.ed.jp>

「守破離」

副校長 木村 順子

立野小スタンダードという冊子があります。A5判12ページほどの冊子で、年度当初教職員に配布されます。1日の流れに沿って、立野小での決まりが明文化されています。例えば、学習のスタンダードは以下のように記されています。

○時間を守る

- ・時間通りに授業を始め、時間通りに終わる。

○返事とあいさつ

- ・はじまりと終わりは挨拶でけじめをつける。
- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をさせる。

どれもあたりまえのことですが、きわめて重要な事柄です。時間を守りなさいと児童に指導する我々教員が、まず手本を示さなければなりません。「はい」と返事をする習慣は、身につけさせたい習慣の1つです。ある会社の人事担当の方と話をさせていただく機会がありました。採用の際の決め手は、返事と整理整頓とおっしゃっていました。

「守破離」という言葉があります。もともとは剣道や茶道などで修業における段階を示したものです。「守」とは基本の型を学ぶこと、「破」とは工夫して既存の型を破ること、「離」とは一つの流派から離れ、独自の型を生み出すこととあります。スタンダードはまさに「守」にあたるものだと考えます。教職員が一同になり「守」を実行することで次の段階に進んでいくことができます。また、1学期は子供たちの学校生活の「守」の段階です。新しい学年、クラスの仕組みや決まりを学び、円滑な学校生活を送るための大事な時期です。全員がクラスの決まりを守り安定した集団になったときに、次の段階に進めます。何もかもがスタンダードだらけで、自主性が育たないという意見を聞いたことがあります。しかし、この「守破離」に則って考えれば、「守」の段階が、いかに重要か分かります。あたりまえのことをあたりまえにできる児童の育成に努めてまいります。



教室の窓から



6年生のスタートを切って早1か月。学年全体としては、始業式前日の新年度準備から始まり、1年生のお世話や、最上級生としての委員会・クラブ活動など、様々な面で活発に活動しています。

我々、6年2組では、学級会や学級集会を定期的に行っています。友達の意見を大切にして、みんなで決めたことをみんなで実践することで、計画⇒準備⇒実践⇒振り返り⇒計画・・・のサイクルができます。自治的な活動を通して、自ら考え、自分たちの力でアイデアを形にすべく、日夜努力しているのです。

始業式の日。「よろしくお祈いします!」と輝く笑顔で元気に挨拶してくれた子供たち。

何事もパワー全開で取り組んでいます。当番も決め、協力しながら徐々に生活がスムーズに流れるようになってきました。

理科の「しぜんのかんさつ」では、植物や生き物を探し、観察しました。「あ!ダンゴムシだ!」「あ!テントウムシだ!」「あ!アリの巣がある!」その声が響くたびに、「え?どこどこ?」と行き、みんなで教え合っています。書くときは書く、観察する時はする。切り替えを意識しながら、楽しく学んでいます。